［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２０年　８月３０日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302438		
法人名	有限会社　アルコップ		
事業所名	グループホーム　緑寿の園		
所在地	福島県郡山市中田町赤沼字瀬戸６５番地１号 （電　話）		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	**H20.8.26**	評価確定日	**H20.10.24**

【情報提供票より】（平成20年　6月30日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　１７　年　　９月　　１日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　　人
職員数	20 人	常勤17人，　非常勤　3人，　常勤換算14.34人	

（２）建物概要

建物構造	軽量鉄筋　　　造り
	2 階建ての　　　１～２　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	50,000　円		その他の経費(月額)	円	
敷　　金	有（　　　　円）　（無）				
保証金の有無 (入居一時金含む)	（有）（100,000円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／（無）	
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円	
	夕食	400　円	おやつ	200　円	
	または1日当たり　1,300　円				

（４）利用者の概要（6月30日現在　）

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護１	3　名		要介護２	8　名	
要介護３	3　名		要介護４	3　名	
要介護５			要支援２	1　名	
年齢	平均　84 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	石井在宅クリニック・太田西ノ内病院・長谷川歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来満3年を経過し、法人代表者（運営者）と管理者が遠大な運営理念をもとに築き上げた地域密着型施設「緑寿の園」は、一段と成熟度が増し、利用者を中心とした運営理念「真心込めた“旬”のサービス」が素直に介護の現場に活かされている。地域密着の理念も運営推進会議を通して、地域浸透がなされており、地域からの信頼が一段と高まってきている。次なる事業への計画も、地域や行政からの強い要望をもとに着々と準備が整ってきており、運営理念の実現に向けて更なる発展を期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の改善課題は、運営者・管理者・職員が一体となって改善に取り組んだ結果が如実に現れており、すべての項目で改善の跡が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 今回の自己評価に対する取り組みは、各ユニットリーダーが中心となり、評価の意義についてビデオ研修を行ないながら、前回の評価を反省し新鮮な気持ちで記入し、最終的に管理者がまとめあげた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5） 運営推進会議は回を重ねるごとに出席者も増え、地域密着施設として地域からの信頼度が高まってきている。前回の会議では近隣の関係機関などから「緑寿の園」に対するボランティア活動や施設見学の積極的な申し入れがあり、従来以上に親近感が増してきている。前回行なった認知症の勉強会は大変好評であった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 年2回の家族会や運営推進会議の席上などで、家族との信頼関係を深める努力をしている。特に面会に訪れる家族に対しては必ず職員が面談し、利用者の近況を説明するとともに家族の意見や苦情などを聞き、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 町内会や地域全般の行事などに積極的に参加すると同時に、ホームの年間行事予定を地域に配布し、常に地域との連携を図っている。

2.　評　価　結　果（詳細）

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「真心込めた"旬"のサービス」・・・利用者一人ひとりの「今」を大切に、心に耳をたてながら、事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のヒアリングにおいても一人ひとりの職員が「旬のサービス」の真意を理解しており、管理者と職員は常に理念の共有と実践に向けて真剣に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後3年を経過し、地域の一員として着実に地域交流が進行している様子が強く感じられた。夏祭り等の地域行事やホームの年間行事を通して地域住民と密接な相互交流がなされている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修用のビデオを購入し、運営者、管理者、スタッフ全員で自己評価・外部評価の意義を理解し、毎年自己評価と外部評価の比較検討をしながら改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、回を重ねるごとに参加者も増え、ようやく地域に密着した取り組みが軌道にのりつつあるように感じられた。6月の会議では認知症についての勉強会を行い、委員の方々から好評を得た。		
6	9				
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回「縁寿の園だより」を発行し、利用者本人の近況報告と金銭管理表、職員の異動などをお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年間2回開催し、意見や苦情が運営に反映できるよう努めている。運営推進会議にも家族が出席しているので、家族との関わりを密にするよう、職員全員で意識して機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動、新規採用について特に配慮しており、利用者への影響や職員間の不安を最小限に止めるようにしている。ただし1階と2階のユニット間での職員異動は事業所全体のスキルアップにも繋がるので適宜行なっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者･管理者は、人材育成がこの事業の最大の課題であることを強く認識しており、各職員の成長に合わせた外部研修を日頃から実施している。管理者は年度計画で人材育成の目標を作成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県のグループホーム連絡協議会県中地区の研修委員になっており、研修を通して地域の事業所との交流も行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの個性に合わせたサービス｢旬のサービス｣を心がけており、各種レクリエーションや食事作りを通して常に喜怒哀楽を共有し、信頼し合える関係を築くよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
III．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究･研修東京センター方式の「心身の情報シート」を使用し、一人ひとりの心身の情報をこまめにチェックし、本人の「今」を大切にしたケアに取り組んでいる。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	「心身の情報シート」を基本とし、利用者の「今の思い」を大切にしながら、職員全員の意見と家族の意向を反映させた、チームで作る利用者本位の介護計画書を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月の長期計画と3ヶ月ごとの見直し、随時の見直しを行っている。特に高齢者や持病を持った利用者には注意を払い、常に現状に合った計画を作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。またいつでも往診可能な協力医療機関があるので、定期的な往診と臨時の往診を受けながら、安心した医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年の課題であった重度化や終末期に向けた事業所としての指針は作成された。内部的検討は行なったが、本人や家族を交えた充分な説明は行われていない。	○	事業所としての指針は出来たので、今後は家族会などで重度化･終末期に対する対応についてしっかりと説明し、現在作成中である「重度化･終末期における覚書」を関係者全員で協議の上完成させることが望まれます。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との接遇については、職員全員が一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねるような言葉使いをしないよう努めている。また、個人情報の取扱には充分注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングも畳の間もゆったりとしたゆとりある広さになっており、一人ひとりのペースに合わせた「旬」の支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自由な雰囲気の中で、食事の楽しさや賑やかさがあって、好ましい食事の時間となっている。利用者と職員が一緒になって準備や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室・浴槽ともに大きめに設計されており、ゆっくり・ゆったり入浴を楽しむことが出来る。入浴は本人の希望により毎日でも入浴可能となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	認知症介護研究・研修東京センターの「心身の情報シート」を利用し、役割・楽しみごとの新しい発見や気晴らしの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	本人の希望や天候の具合を見て、日常的な散歩やドライブに出かけている。日光浴を行うことを大切に考えており、出来るだけ近隣の散歩でも天気の良い日は外出をするようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないケアに取り組んでおり、日中玄関の鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎月行われているが、内容が形式的である。毎回シュミレーション（状況設定）を行い、実のある訓練が必要である。	○	夜間を想定した利用者の避難方法、職員1人のときの誘導訓練、特に2階の場合は非常階段までの誘導時間やエレベーターの使用など、現実的な避難訓練が望まれます。また非常食の備蓄なども考慮していただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた支援を行なっている。毎日のバイタルチェックを通して栄養状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く明るく、温度も適度に設定されている。テレビの周辺や廊下などには手作りのカレンダーやちぎり絵が彩りよく飾られており、季節感も取り入れた快適な空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	調査訪問時が夏場ということもあってか、各居室とも開放的にドアは開かれたままになっていた。特に入居3年を経過した方は、個々人の文化と歴史が感じられる居室つくりとなっている。		

※ ▒ は、重点項目。

3　評価結果に対する事業所の意見

事業所名　グループホーム　縁寿の園

記入担当者名　　佐藤　拓也

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。